

本号を拝読させていただき、いかに正しい病理診断をつけることが難しいかがわかった。一般読者は白か黒か決めてほしいと要望している。しかし灰色の病変が存在し、その定義が個々の病理医で異なる。その理由の1つにはその病理医の育ってきた過程が異なる点、更に消化器病を専門にしているか否か、更に検体のみで診断しているか、あるいは臨床経過を十分に把握したうえで診断しているかなどが根本原因であろう。この点を理解していないと、おそらく今回の座談会の内容を読み返しても十分に理解できないと思われる。石黒論文をみても確かに前癌病変としての dysplasia は存在する。しかも消化器専門の病理医の集団の結果からはごくわずかの症例である。

筆者の見解としては、臨床的には残しておきたい病名・病態である。多くのヨード不染帯が発見されるようになり、生検で明確に判断できないとき、一応その範疇に収めておき、そして今回のような企画のとき分子生物学的手法も加えて結論を出していくことは、いま全国の一般病理医に統一を図るより、寄り道ではあるがより賢明な手段と思われる。ただ現在行われている消化器専門病理医のレポートの方式は存続させていってほしい。それぞれの考え方の主張を同心円状に全国に普及させていくことが、白壁先生の常日ごろおっしゃっていた“草の根運動”の1つの姿であろうと解釈しているからである。

胃と腸

6月号 (第31巻・第7号) 予告

 発売予定 6月25日
 定価 2,060円(税込)

主題／遺伝性非ポリポース大腸癌(HNPCC)

序 説	川崎医大・内科	飯田 三雄
主 題	浜松医大・2外	馬場 正三・他
HNPCC の概念と日本の現状		
遺伝性非ポリポース大腸癌(HNPCC)の臨床および画像上の特徴	国立がんセンター中央病院・放	牛尾 恭輔・他
HNPCC と大腸腺腫	東大・1外	渡辺 聡明・他
遺伝性非ポリポース大腸癌(HNPCC)のサーベイランスとマネージメント	市立豊中病院・外科	高見 元敏・他
HNPCC と遺伝子異常	東医歯大・衛生学	湯浅 保仁
主題症例	阪大・2外	塚本 文音・他
4世代にわたり大腸癌が多発した HNPCC の1家系	星総合病院	野水 整・他
子宮体癌を伴った典型的な HNPCC の1家系	秋田大・1内	鎌田 敦志・他
28歳で右側早期大腸癌が発見された HNPCC の1家系		
皮膚癌および脳膠芽腫を重複した HNPCC(遺伝性非ポリポース大腸癌)の1例	駒込病院・外科	安野 正道・他
多発微小大腸腺腫性病変を認めた遺伝性非ポリポース大腸癌(HNPCC)の2例	済生会熊本病院・消化器科	多田 修治・他
長期経過観察した HNPCC の1例	秋田日赤・胃腸センター	田村 智・他

胃と腸 (第31巻 第6号)

編集 早期胃癌研究会

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1996年5月25日発行(毎月25日発行)

1部定価 2,060円(本体2,000円)(配送料124円)

1996年々ぎめ予約購読料 28,000円(本体27,184円)

(増刊号4,120円を含む13冊)(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693

印刷所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1996, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複製・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>
- 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複製される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。
(担当)小松原・湯原・榎兼・江口・長谷川